

さよなら 第5代調査船「とくしま」

海洋科 金田 佳久

Key word ; 調査船, 思い出, 代船, 海洋調査, 黎明期



写真 16 年間の最終観測に出航する調査船「とくしま」

昭和 59 年の竣工から 16 年を経過した今年 1 月, 第 5 代調査船「とくしま」が最後の観測を終え, 現役を退きました。相前後して, この 3 月末日には調査船「とくしま」と苦楽を共にした蛇目, 井元の両乗組員が長きにわたった公務員生活に終わりを告げます。

そこで, 両氏に第 5 代調査船「とくしま」や自ら携わった調査についての思い出を語ってもらいました。以下は, 両氏から聞き取った内容を取りまとめたものです。

- 第 5 代調査船「とくしま」の思い出 -

昭和 59 年 1 月, 造船所に船を引き取りに行った日は折からの大雪で「とくしま」は分厚い雪化粧をまっています。引き渡し式を控えて, その日は雪降ろしに汗を流したことを覚えています。翌日の県庁前での引き渡し式では一転して晴天となり, 乗組員全員が安堵しました。

第 4 代「とくしま」として船足は変わらないものの第 5 代「とくしま」は安定性が格段に増し, 非常に乗りやすい船でした。一方, 搭載された航海計器や調査機器は目新しい物ばかりで習熟するのに時間がかかりました。また高価な機器が多く取り扱いに非常に気を遣いました。就航当時は, 魚礁の効果調査を精力的にこなし, サイドスキャンソナーを使った魚礁の設置状態および天然礁などの地形に関する調査, 水中ビデオカメラを使った魚群の蜻集状況の調査等を行いました。他にも潮流計や電磁海流計などの最新鋭の科学調査機器を導入しており, 徳島県の海洋調査にとってハイテク調査の黎明期を迎えたといっても差し支えないと思います。この後も平成 2 年には STD (メモリー式水温・塩分計), 平成 4 年には 3 層潮流計も加わり, 観測の精度やデータの処理能力

が飛躍的に向上しました。魚礁調査の他にも海洋観測，漁場調査，モジャコ調査，赤潮調査，流況調査，油流出調査，採泥調査，ヒトデの分布調査など多方面で活躍し，一定の成果を収めたと自負しています。なかでも，最も誇れるのは事故等のトラブルも無く調査航海を全うできたことです。海部沖合の観測からの帰りに風に吹かれて何度も怖い思いをしましたが無事に乗り切ることができました。これは第5代「とくしま」に乗船した期間に限らず，在任した期間についても言えることで，乗組員全員のチームワークの賜だと感謝しています。

この号が発刊される3月には，第5代「とくしま」の代船の第6代「とくしま」がお目見えしていることと思います。この船も科学技術の進歩とともに現在における最新鋭の航海計器，機関システム，調査機器等を搭載しています。第6代「とくしま」を建造するに当たっては，第5代「とくしま」で培った知識，技術，経験等が十分反映されています。その意味で，第5代「とくしま」は第6代「とくしま」の礎になったものと確信しています。

最後になりましたが，蛇目，井元両氏が，今後ますますご活躍されることを願って止みません。